

“キヤツ子”

CATCH

Vol. 103

2023.11



西東京市図書館

目で味わうグルメ

読書の秋にぴったりのメニューはいかがですか？



『みかん、好き？』

魚住直子／著 講談社

皆さんは、みかんは好きですか。私からは、瑞々しいこの一冊をおすすめします。

舞台は瀬戸内海。島が好きになれない少年と、島のみかんが大好きな少女が一緒にみかん畑を手伝うお話です。

思わず感情移入してしまう登場人物は間違いなくこの本の魅力といえるでしょう。一歩ずつ成長していく姿がとてもまぶしく感じられます。主人公の拓海。最初は島のことが嫌いで、畑の手伝いも億劫でしたが、物語の終盤には「都会の人に、みかんの木を友達のように感じてほしい」と思うようになります。そして、拓海が変化したことの要因としてひなたの存在は欠かせません。ひなたは、みかんが好きなあまり東京から越してきた少女です。性格は明るく朗らか。私が登場人物達に感情移入できたのはひなたのお陰かもしれません。私達と同じ東京で生まれ育ったひなたが、私達と島とをつない

でくれます。そんなひなたにもある悩みがあります。ぜひ、本を読んで確かめてみてください。

また、島の暮らしを覗けることもこの本の醍醐味です。この本では島の良い面だけが描かれているわけではありません。ひなたは「こんなにきれいな場所があるなんてびっくりしたよ」と語ります。一方拓海は、そんなひなたの言葉を一蹴します。「ここは狭い世界だから、知りたくもない話もすぐ耳に入るし、良いことばかりじゃない。」住んでみないと分からない意見ですよ。島のリアルな生活を疑似体験できるのは、この本の楽しいところです。

爽やかですがすがしい風を感じられる物語。皆さんも、甘くて酸っぱいみかんのようなこの本を、味わってみませんか。

『タルト・タタンの夢』

近藤史恵／著 東京創元社

この本は、2021 年放送 ドラマ『シェフは名探偵』の原作小説です。舞台は、商店街の小さなフレンチ・レストラン「ピストロ・パ・マル」。シェフの三舟は、10 年以上フランスの田舎でレストランなどを転々としながら修行していた変わり者です。彼の料理は、気取らなく、本当にフランス料理が好きな客の心と舌をつかむものばかり。そんなシェフ三舟が、客たちの巻き込まれた事件や不可解な出来事の謎を解く推理小説となっています。

常連の西田さんが体調を崩したわけは？ 甲子園を目指していた高校野球部の不祥事の真相は？フランス人の恋人はなぜ不味いカスレをつくったの

か？ 7編の絶品料理の数々と極上のミステリを読んでみてください。短編集で、サクサク読めるのでスキマ時間におすすめです。フランス料理が食べたくなる小説です。

『おしまいのデート』

瀬尾まいこ／著 集英社

この本は短編集です。40 ページ前後の「デート」を描いた物語が5編収録されています。どの話も読みごたえがあっておススメですが、今回はグルメがテーマということで、2編目の『ランクアップ丼』を紹介します。

主人公の三好は、毎月24日の給料日には必ず、うどん屋で玉子丼を食べます。これは三好の高校時代の恩師、「上じい」こと上田先生と2年近く続けている習慣です。なぜ2人にはこんな習慣があるのでしょうか。

三好が高校3年生の時、他人に対して反抗的で荒れていた彼は、ある日、放課後夜遅くまで担任に説教されます。ようやく生徒指導室を出ると、上じいさんが三好に「飯を食おう」と声をかけます。断る三好を上じいさんは無理やり学校近くのうどん屋に連れていき、玉子丼を2つ注文しました。甘辛い、いいにおいがする、長ネギと玉子がとろりとやわらかく、玉子とだしが絡んだご飯がふっくらしている玉子丼。これはそれまで乱れた食生活を送っていた三好の胃袋をやさしく掴みました。それ以来、三好が悪さをして生活指導を受けるたびに、上じいさんは三好に玉子丼を食べさせました。そして三好が社会人

になって働き始めてからは、彼が借りを返すかのように上じいに玉子丼をごちそうするようになったのです。

そんな「デート」を繰り返す2人でしたが、実は上じいには三好に言えない秘密があったのですー。

元不良と教師の友情…敬愛？この2人の関係性を、どう言ったらいいのでしょうか。この本には、この話以外にも、独特な関係性の2人の「デート」が4編描かれています。さらに毎編「玉子丼」のように魅力的なグルメが物語に花をそえてくれていて、きっと飯テロ間違いなしです！！読みやすい短編集ですので、ぜひ、手にとってみてください！！



『秘密の花園 上・下』

バーネット／作 山内玲子／訳 岩波書店

物語の中に登場する食事のシーンが印象的な作品といえばコレ！

主人公のメアリはいつも不機嫌でわがままな性格の少女。インドで両親を亡くしイギリスの伯父の屋敷に引き取られます。メアリは初めのところは身心ともに不健康な子どもでしたが、引き取られた先の大自然の中で過ごすうちに元気で明るい性格へと変わっていきます。

作中で何度も描写されている食事のシーンで特に印象に残ったのが、メアリが仲良くなった2人の少年・ディックンとコリンと一緒に屋外に作った

即席のかまどでジャガイモや卵を蒸して食べる場面。子どもだけで思い切り遊んで楽しくご飯を食べている生き生きとした様子が、とても魅力的に感じられます。

一風変わった食べ物や豪華な食べ物ではないですが思わず惹かれてしまう食べ物の数々、ぜひ読んで味わってみてください。

＼西東京市図書館 YA 担当の新刊紹介！！／

『ぼくらの胸キュンの作り方』

神戸遙真／著 木乃ひのき／画 講談社

サッカー部に所属する日向は、漫画が大好きな中学2年生。漫画の中でも特に胸がキュンキュンするような少女漫画が大好きで、毎月発売される女子向け漫画誌『ミント！』の発売を楽しみにしていますが、長男で家族を守るように、「男らしく」あるように育てられた日向は、自分の大好きなものを周りの友達に言えないでいました。

夏休みが始まろうとしていたある日、日向の下駄箱に手紙が。ラブレターかと思いきや、そこには「ひなたかおる先生へ お話があるので、今日の部活のあと、裏門へ来てください。」と書かれていました。「ひなたかおる」とは、日向が小説投稿サイトで自作の恋愛小説を投稿するときのペンネーム。誰にも知られていないはずなのに、なぜバレてしまったのか不思議に思いな

がら裏門に向かうと、待っていたのは同じクラスで美術部の、唯斗でした。
唯斗は一切迷いのない目で、日向にこう言います。

「ひなた先生、僕と一緒に漫画、作らない？」

中学二年生の夏、二人は『ミント！』の月例賞を目指し、漫画を書き始めました。

自分の好きなものを「好き」と伝えることに勇気が出ない人へ。自由に生きる唯斗と、自分の「好き」を肯定できず、モヤモヤしている日向。正反対の二人が背中を押してくれる一冊です。



いっしょに「CATCH」をつくりませんか？ ～共同編集者募集のお知らせ～

令和6年度の共同編集者を、この冬から募集する予定です。

くわしい活動内容や応募方法については、12月以降に図書館のHPやポスターでお知らせします。

ぜひあなたのアイデアやセンスで、魅力的なCATCHを作りましょう！



共同編集者のつづやき
～編集後記に代えて～

食欲の秋、芸術の秋ですね。今回は、編集者たちに物語のなかで食べてみたいもの、クリスマスで連想するものを書いてもらいました。読者のみなさんも一緒に考えてみてください。

①たわら

②ONE PIECE のサンジの料理

③クリスマスプレゼント

①にちわ

②「コクリコ坂から」の、コロッケです。音楽も最高な名シーンで…！

③サンタさん宛にお菓子を机の上に置いておいたら、翌日お菓子のゴミが残っていたということがありました（笑）

①ブロッコリー

②となりのトトロでさつきとメイが食べてたきゅうり

③去年のクリスマスは部員の皆でカラオケに行きました。先輩と歌って点数ゼロ目が出たときは驚きました。

①ペンネーム

②物語のなかで食べてみたいもの

③クリスマスといえば…

①りほ

②絵本「もぐらバス」のたけのこ料理。

③小学校低学年のとき、プレゼントを開けようと階段をのぼったら、足の小指をぶつけて悶絶したことですね…。

①しほ

②「しろくまちゃんのほっとけーき」黒の線と黄色と茶色の3色のみで表されたほっとけーき。人生最初に受けた飯テロです！！

③サンタの正体を知りたくなくて早めに就寝していたこと。